

陳述說明的「wakeda」的否定形式「wakedewanai」所言何物  
— 以日本語教育文法的觀點進行文法記述 —

龔柏榮

名古屋大學國際言語文化研究科博士生

摘要

本稿站在日本語教育文法的觀點，針對「wakedewanai」進行分析以及考察。以在「怎麼樣的場合」「怎麼使用」為考察重點，同時也記述「wakedewanai」在不同文章脈絡所呈現的使用機能。透過上述的分析以及考察，本稿將「wakedewanai」的用法分為兩大類，並可再細分為七小項用法。此外，為了方便學習者進行語言產出，根據不同的使用機能分別整理出各自的共現表現。

關鍵詞：日本語教育文法、說明性的情態詞、wakedewanai、  
文章脈絡、共現表現

受理日期：2019年08月31日

通過日期：2019年11月15日

# **A Pedagogical Context-oriented Grammatical Description of Meaning conveyed by “wakedewanai” : the Negative Form of Japanese Explanatory Modality “wakeda”**

Kung, Po-Rong

Ph.D Candidate, Graduate School of Languages and Cultures,  
Nagoya University

## **Abstract**

This paper analyzes and discusses the Japanese explanatory modality “wakedewanai” in terms of context-oriented pedagogical grammar. The analysis considers in when and how “wakedewanai” is used, as well as the function which the phrase is fulfilling in the context of each usage. As a result, it was found “wakedewanai” could be grouped into two large categories, and further divided into seven detailed types. The function of each type and where the phrase is most likely to co-occur was also complied, considering the need for classification for production by second-language learners.

Key-words: context-oriented Japanese Pedagogical Grammar,  
Explanatory Modality, Wakedewanai, context, Co-occurrence

# 説明の「わけだ」の否定形式「わけではない」が伝えるもの —日本語教育文法の視点からの文法記述の試み—

龔柏榮

名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士課程後期課程

## 要旨

本稿は説明の「わけではない」を日本語教育文法の視点から分析・考察を行うものである。分析視点としては、「わけではない」が「どのような場面で」「どのように」使用されるかを考察し、またそれぞれの使用文脈において「どのような機能」を果たしているのかを記述した。上記の分析視点に従って考察した結果、「わけではない」は大きく2種類、細かく見れば7種類に分類することができた。産出のための分類であることを考慮して、その機能と共起しやすい表現も整理した。

キーワード：日本語教育文法、説明のモダリティ、わけではない、  
文脈、共起表現

# 説明の「わけだ」の否定形式「わけではない」が伝えるもの —日本語教育文法の視点からの文法記述の試み—

龔柏榮

名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士課程後期課程

## 1. はじめに

「わけではない」に関する従来の先行研究では、「推論の否定」と「部分否定」という2つの用法を中心に説明が行われてきた。「推論の否定」とは「状況や先行文脈を根拠として、聞き手が推論によって導き出した帰結、聞き手や一般の人々が導き出す予想される帰結を否定する」(日本語記述文法研究会 2003:213)用法であり、「部分否定」とは「Qを完全に否定するのではない」(庵ほか 2001:293)用法である。また、日本語教育の現場でよく使われている教科書を分析したところ、中級段階で導入されており、これまでの先行研究での記述と同じように説明されることが多く、次の(1)と(2)のような例が提示されている。

(1)彼はベジタリアンだが、卵まで食べないわけではない<sup>1</sup>

らしい。(『みんなの日本語中級Ⅱ』本冊 P. 38)

(2)若い人がみんな若者言葉を使うというわけではない。

(『できる日本語 中級』本冊 P. 124)

また、「わけではない」には次のような学習者の不適切な使用が見られる。

(3)一旦環境が破壊されると人類と他の生物は楽しく生きていく

わけではないと思う。(『日本語誤用辞典』P. 777)

---

<sup>1</sup> 例文中の「わけではない」には下線を施す。また、解釈に重要だと思われる情報には波線を施す。

(4) ロボットじゃあるまいし、毎晩てつやして働けるわけでは  
ない。(『日本語誤用辞典』P. 776)

(3)は推論の否定の用法を表す文、(4)は部分否定の用法を表す文である。いずれの「わけではない」も統語的には問題なく使用されているが、意味的に違和感を覚える。このような学習者の誤用例は「わけではない」の使い方についての説明・指導が十分に行われていない可能性を示唆するものではないだろうか。日本語教育において「わけではない」を指導する場合、学習者にそのまま「推論の否定」ないしは「部分否定」という説明を提示するだけでは不十分であると思われる。そのため、本稿は文脈や共起情報の記述によって、この違和感に学習者が気づき、学習者の理解が進むようになる。

「わけではない」は文型の中でどのような位置づけなのかを国際交流基金(2002)で確認すると、旧日本語能力試験 2 級の「文法的な機能語」として「～わけだ/～わけではない/～わけでもない」の範疇に分類されている。また、庵(2015)<sup>2</sup>の日本語学の知見から新たに検討されたレベル別の文法項目の中では、「わけで(は/も)ない」は中級レベルに属する文法項目として分類されている。以上のことから、「わけではない」は日本語学習者にとって中上級段階に進んだ過程で、習得すべき文法項目であると考えられるため、本稿では「わけではない」を取り上げ、日本語教育においてどう扱うべきなのかを検討していく。

本稿の構成は次のようになる。まず、2 節では、日本語教育文法の研究理念と手法を概観し、本稿で用いる日本語教育文法のための研究手法を確認する。3 節では、先行研究を「わけではない」の主な用法と他のモダリティとの比較に分け概観しつつ、日本語教科書における「わけではない」の意味記述を検討し、それぞれの問題点を述

---

<sup>2</sup> 庵(2015)は、『BCCWJ(書籍・コア)』、『新書コーパス』、『新聞コーパス』と『名大会話コーパス』計4つのコーパスを用いて、出現頻度とそれぞれのコーパスにおける特徴項目をもとに、新たにレベル別の文法項目を構築している。

べる。4節では、本稿の分析視点を述べる。5節では、「わけではない」の文脈を踏まえて分析する。6節では、「わけではない」について日本語教育現場への提言を試みる。7節では、まとめと今後の課題を述べる。

## 2. 日本語教育文法とは

従来、日本語教育の現場において、「文法」は大きな位置を占め、そのあり方について多くの考察がなされてきた。野田(2010)によると、「日本語教育のための文法」に関しては日本語学の創成期から発展期にかけて、日本語学で研究されている内容をそのまま日本語教育の現場で使うことができたと述べている。また、日本語学における文法記述と日本語教育で求められる文法記述との乖離を受けて2000年代に入る頃から、「日本語教育文法」という用語が使用されるようになった(庵 2011)。近年、文法と日本語教育の新たな関係の構築を目指す、「日本語教育文法」の名を冠した論文や著書がいくつも見られる(野田 2005、山内 2009、森・庵 2011)。王(2018)はこうした文献の研究概念を以下のようにまとめている<sup>3</sup>。

①「コミュニケーション能力」「四つの言語活動」(野田)

②「理解のための文法」(野田)

「産出のための文法」(庵)

③「学習者の母語を考慮した日本語教育文法」(井上)

「三位一体の研究構像」(張)

「母語の知識を生かした日本語教育」(庵)

(王 2018:116)

いかなる研究分野においても、研究手法が大切だということから、森・庵編(2011:53)では日本語教育文法のための研究手法と各手法を

---

<sup>3</sup> それぞれ研究概念の流れの詳細については王(2018)を参照されたい。

用いて書かれた論文を以下のようにまとめている。表1からわかるように、それぞれの研究論文は研究対象に対して多様なアプローチを組み合わせて、そしてデータに基づいて研究対象を多面的に分析している。

表1 「論文編」にみる多様なアプローチ(筆者一部修正<sup>4)</sup>)

		庵	岩田	太田	小西	建石	中俣	橋本	藤城	松田	森
日本語教科書調査	提出課と例文		○	○			○		○	○	○
	コーパスとして	○		○		○					
	練習問題		○								
コーパス調査	書き言葉			○	○	○	○				○
	話し言葉		○	○	○		○				
	学習者		○				○	○	○	○	○
語彙調査	分類語彙表					○		○			
	スタンダード										
アンケート調査				○					○	○	○
言語使用調査		○			○						○
実験調査		○							○	○	
統計的検定		○	○				○			○	○

本稿では、文法研究を日本語教育現場に役に立てるべきだという日本語教育文法の研究理念に賛同する。そのため、表1にまとめる分析手法を援用し、「わけではない」を分析・記述する。今回の考察にあたっては、「日本語教科書調査」と「コーパス調査」といった研究手法を用いる。まず、「日本語教科書」を考察する理由としては、教科書は学習者にとって日本語習得過程で当然のように身近にあるものだからである。そのため、3.2節では4種類の総合教科書を調査

<sup>4</sup> 森・庵編(2011:53)の表1では、一番右の欄「日本語教科書調査」～「統計的検定」の前に該当の章番号が付してある。その番号を筆者が取り除いたものが表1である。

の対象とし、「わけではない」の意味記述と文脈情報をどのように記述しているかということを確認し、教科書の説明が不十分であることを指摘する。続いて、本稿で用いるもう1つの研究手法は「コーパス調査」である。教師が学習者に指導する際には、ある文法項目を説明するのはもちろん重要であると考えられるが、教科書の意味記述と実際の言語使用の差は、母語話者とのコミュニケーションに何らかの影響を与えるものと思われる。そこで、言語の使用実態を明らかにすることが学習者のより適切な使用に繋がるとと思われる。

以上のことを踏まえて、本稿は日本語教育文法の視点から「わけではない」を明らかにするために、森・庵編(2011:53)がまとめている研究手法を用いる。

### 3. 先行研究とその課題

#### 3.1 日本語研究における意味記述

「わけではない」については、これまで主に①用法分類、②他のモダリティとの比較という2つの観点から研究が展開されてきた。この節では、従来の文型辞典や先行研究において「わけではない」がどのように記述されてきたのかを概観し、その問題点を述べる。

##### 3.1.1 「わけではない」の主な用法

従来の先行研究において「わけではない」の意味は、以下の2種類に分けて記述されている。

###### ・「推論の否定」用法

日本語記述文法研究会(2003:213)では、「状況や先行文脈を根拠として、聞き手が推論によって導き出した帰結、聞き手や一般の人々が導き出すと予想される帰結を否定するときに用いられる」と記述している。同様の記述に、寺村(1984)、森田・松木(1989)、グループ・ジャマシイ(1998)、庵ほか(2001)、友松ほか(2010)、田中(2010)などがある。以下、先行研究で取り上げられている例文を示す。



(5) 最近、私はスポーツをやっていないが、けっして嫌なわけではない。  
(日本語記述文法研究会 2003:214)

(6) 生活が苦しいからといって泥棒をしてもいいというわけではない。  
(庵ほか 2001:293)

#### ・「部分否定」用法

もう 1 つの用法は文のある一部を否定する「部分否定」で、庵ほか (2001:293) が「Q を完全に否定するのではない」といった説明をしている。同様の記述に、工藤 (1997)、友松ほか (2010)、大場 (2013) などがある。例えば、以下の 2 例はそれぞれ文の一部「特に」と「全部」が否定されている。

(7) 私は特に映画は好きというわけではないが、月に 2、3 本は見る。  
(庵ほか 2001:293)

(8) 冷蔵庫の中のビールを全部飲んだわけではない。  
(大場 2013:53)

ただし、用法というのはあくまでも個々の状況における用いられ方にラベルを付けて整理したものにはすぎない。主な用法が 2 つあるということを示すだけでは、使用実態に基づいた記述ではないと考えられる。意味記述に実際に使用されている形式や意味が網羅されているかについては疑問が生じる。「わけではない」については先行研究においていくつかの重要な指摘がなされてはいるが、意味・用法の全体は十分に明らかにされていない。そこで、本稿は「わけではない」の意味・用法の全体を、使用実態を踏まえて捉え直すことを 1 つの課題とする。コーパスから抽出したデータを考察した上で、「わけではない」の意味・用法を踏まえ、日本語教育における扱いを検討する。

#### 3.1.2 他のモダリティとの比較からみる「わけではない」

工藤 (1997)、日本語記述文法研究会 (2003)、泉原 (2007)、田中

(2010)は「説明のモダリティ<sup>5</sup>」という観点から、「のではない・とは限らない」などの形式と比較している<sup>6</sup>。特に、「わけではない」について、泉原(2007:1055-1057)は、「聞き手を説得する場合に多く使われる」「話し手が常識や経験に基づいた考えで、聞き手に事情説明をして、説得しようとする態度を示す」といった2つの特徴を指摘している。しかし、話し手が聞き手に何を説明して何を説得しようとするのか、何のために聞き手が推論によって導き出すものを否定するのか、使用実態は明らかにされていない。

以上のことから、「わけではない」を用いて、話し手が聞き手に何について何を説明しようとするのか、何のために聞き手が推論によって導き出すものを否定するのかを改めて問うことが必要であると考える。

### 3.1.3 問題提起

本節では、なぜ「わけではない」の説明に「推論の否定」と「部分否定」だけでは不十分で、なぜ他の視点が必要なのかを述べる。

(9)結婚については、ずいぶん考え方が違ったし、私はきっと自分が期待していたほど愛されてはいなかった。それは残念なことだとは思いますが。でも、だからといって、顔も見たくないほど嫌いになったわけではありません。私が産んだ娘を大事に育ててくれていることに感謝もしています。

(PB31\_00143: 出版・書籍)

「推論の否定」と「部分否定」を当てはめて解釈すると、例(9)の「わけではない」は二通りの意味にとれる。ここで注目したいのは、「元旦那の顔を見たくないほど嫌いなのであろう」という推論をいかに捉えるのかということである。まず、「結婚については、ずいぶん考

<sup>5</sup> 日本語記述文法研究会(2003:189)は、「説明のモダリティ」を「文と先行文脈との関係づけを表すもの」と定義している。

<sup>6</sup> 「のではない・とは限らない」は本稿の考察対象としないが、今後別稿にて考察を行いたい。

え方が違ったし、私はきっと自分が期待していたほど愛されてはいなかった」という前文脈から話者は「元旦那の顔を見たくないほど嫌いだろう」という推論が導き出される。だが、「でも、だからといって～」以降の「嫌いになったわけではありません」でその推論が否定され、元旦那を嫌いな度合いはそれほど高くないことがわかる。そして、「娘を大事に育ててくれることもあるため、元旦那のことはまったく嫌いになっていないとは言えないが、顔も見たくないほどは嫌いになっていない」といった話者の気持ちが文脈から読み取れる。この例を基に先行研究の指摘を考えると、この文脈における「わけではない」は「元旦那の顔を見たくないほど嫌いだろう」という「推論の否定」と、「顔も見たくないほど嫌いになっていない」という「部分否定」の意味用法を持っていると考えられる。つまり、この例文(9)は一つの文脈に対して「わけではない」の異なる解釈が可能ということになる。

### 3.2 日本語の教科書における意味記述

本節では日本語教育における「わけではない」の扱いを検討する。国際交流基金の「日本語教育国・地域別情報<sup>7</sup>」から台湾の高等教育でよく使用されている教科書のリストを参考に、『みんなの日本語中級Ⅱ』（2012）、『できる日本語中級』（2013）、『テーマ別 中級から学ぶ日本語』（2014）、『まるごと 日本のことばと文化 中2 B1』（2017）を選定した。以下表2に4冊の本冊や教師用指導書で取り上げられている意味記述を示す。

表2 日本語教科書における「わけではない」の意味記述<sup>8</sup>

	意味・用法
『みんな』	①「…わけではない」文脈やその場の状況などから一般的に。あるいは簡単に導き出せる推論「…」を

<sup>7</sup> 日本語教育 国・地域別情報 2017年度台湾(2017年度)

<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2017/taiwan.html#KANKYO>

<sup>8</sup> 以下、『みんなの日本語中級Ⅱ』（2012）は『みんな』、『できる日本語中級』（2013）は『できる』、『テーマ別 中級から学ぶ日本語』（2014）は『テーマ別』、『まるごと 日本のことばと文化 中2 B1』は『まるごと』とする。

	否定する ②「みんな」「いつも」「必ずしも」「全く」など、すべてという意味の副詞をともなうことが多い ・この店は人気があるが、必ずしも毎日大勢の客が入るわけではない。
『できる』	[生活の中で耳にする日本語について説明するときに使われることば] ・A: ジョンさんはクラシック音楽が好き? B: クラシック音楽……嫌いな <u>わけじゃない</u> けど、聞いていると眠くなっちゃうんだ。
『テーマ別』	～ということが順序立てて説明されているが、それは違う ・勉強したからといって、全部おぼえている <u>わけではない</u> 。
『まるごと』	[弱く否定する] ・心配事がある <u>わけじゃない</u> が、最近、眠れない日が続いている。

表2から、各総合教科書が決定した編纂方針の差異によって、「わけではない」に関する記述内容も異なってくるのが観察できた。

『みんなの日本語』(2012)のように意味の面から解説するものもあれば、『できる日本語』(2013)のような機能の面から説明するものもある。また、『できる日本語』は「わけではない」の意味が記述されていないが、それは『できる日本語』が文脈、場面から学ぶことを重視しているからだと思われる。[生活の中で耳にする日本語について説明するときに使われることば]の例として、「わけではない」という文型がピックアップされているだけで、それをきっかけに学習者が必要な文型を学んでいく活動へと落とし込んでいく構成になっていると考えられる。

ただし、これらの教科書における「わけではない」の扱いには、以下の2つの問題点があると思われる。

## 問題点①

[形式・用法のごく一部しか記述されていない]

4 種類の総合教科書が共通して多く提出しているのは、文末に現れる「～わけではない。」、あるいは文中にある「～わけではないが、～」の形式である。しかし、5 節で考察するように、上記した以外にもほかの共起表現が使われている。

(10) 日本に長く住んでいるからといって、日本語がじょうずに話せるわけではない。

(『テーマ別 中級から学ぶ日本語(三訂版)』P. 61)

(11) A: 遠慮しないで、もっと食べてください。

B: 遠慮しているわけじゃないんですが、もうおなかがいっぱいなんです。

(『できる日本語 中級 本冊』P. 124)

## 問題点②

[使用実態からみた注意点が十分記述されていない]

「推論の否定」と「部分否定」の用法を持つ「わけではない」は、用い方によっては不適切な表現になりやすいと考えられる。1 節で『日本語誤用辞典』(2010)から取り上げた学習者の「わけではない」の使用例(12)と(13)がそれに該当する。

(12) 一旦環境が破壊されると人類と他の生物は楽しく生きていくわけではないと思う。(例 3 再掲)

(13) ロボットじゃあるまいし、毎晩てつやして働けるわけではない。(例 4 再掲)

(12)では、学習者が「一旦環境が破壊される」といった推論から「人類と他の生物は楽しく生きていくことができない」ことを導き出したいという学習者の意図が読み取れる。(13)は「人間はロボットのよ

うに毎晩徹夜して働ける」といった文における「毎晩」という部分を否定したいという学習者の意図が推測されるが、前の文脈に「じゃあるまいし」のような強調的な語が使われているため、ここでは「わけではない」を使ったほうが不適切であると『日本語誤用辞典』（2010）は述べている。

#### 4. 本稿における分析の視点

本稿では「わけではない」がいかなる場合に、どのように話し手によって用いられるのかを見るため、太田（2005、2014）で用いた記述方法に倣い、「どのような場面で」ということを【現実と命題の関係】から、「どのように」を【話し手の命題に対する態度】から考察することにする。また、「わけではない」それぞれの使用文脈について、そこで「わけではない」が何をしているのかを検討し、それを【機能】としてまとめる。なお、本稿の分析にあたって用いた【現実】と【命題】については、それぞれ「実在事態」と「現実の事態から推論される事態」を指す。

こうして【現実と命題の関係】【話し手の命題に対する態度】【機能】を記述していくことにより、実際の運用を繋ぎ、「わけではない」がどのように用いられるか類型を示す。

#### 5. 文脈からみた「わけではない」

上述の分析視点に従って考察した結果、「わけではない」は【現実と命題の関係】から大きく2種類（ⅠとⅡ）、さらに【話し手の命題に対する態度】と【機能】からⅠをA～Eの5種類に下位分類、ⅡをFとGの2種類に下位分類することができた。以下にそれぞれを記述する。また、「わけではない」の産出のための分類であることを考慮して、各用法と共起しやすい表現も整理する。

##### 5.1 命題の表す事態に話し手の判断が含まれる場合

命題の表す事態が真でもある、あるいは真でないとわかっているにもかかわらず、話し手があえて命題に反する事態、現実世界で確

認できる状況を根拠として持ち出す。それに加えて、「わけではない」で表現されるのは、話者の意図する方向に聞き手の意見や認識を変化させようとするような話し手の意図であり、いわゆる話し手が聞き手に「納得させる」ものとして働くことになる。以下、本稿でI類に分類される「わけではない」とその5種類の下位分類について述べる。

I - A

【現実と命題の関係】

命題は真でもあるが、それに反する何らかの状況が存在する

【話し手の命題に対する態度】

命題は適切さが低いと認識している

⇒【機能A】命題の適切さをわざわざ確認する

【共起しやすい表現】特に、別に

(14) 普通の町の楽器店だと取り扱っているところは少ないと思いますが、特に購入が難しいわけではありません。日本人でチェンバロ製作をされている方もいらっしゃいます。

(0C01\_02533:特定目的・知恵袋)

(15) 毛利は、秀吉とは別に、仲がいいわけではない。秀吉に、高松城を攻め落とされ、城主が切腹した恨みを持っている。

(LBt9\_00009:図書館・書籍)

例(14)は現実世界で確認できる状況「取り扱っている楽器店が少ない」ことから、命題「チェンバロの購入が難しい」と判断されるが、それが話し手に否定されるわけである。また、命題「チェンバロの購入が難しい」の適切性が低いことを確認するため、現実世界では命題に反する「日本でチェンバロ製作をされている方もいる」といった状況を根拠にしている。例(15)について「毛利と秀吉は仲が良いだろう、または悪くないだろうという認識が一般的になっている」ことから、

命題の「仲がいい」と推論される。しかし、話し手がそれを否定している。後文脈からわかるように、命題の「毛利と秀吉二人は仲がいい」ことの適切性の低さを確認するため、現実世界では「毛利が秀吉に高松城を攻め落とされ、城主が切腹した恨みを持っている」といった命題に反する状況を持ち出している。

ここで注目したいのは、この用法では共起しやすい表現「特に」と「別に」である。「特に、別に」のような、一般認識と違って命題の適切性を際立たせる表現を用いることによって、命題の適切性の低さを確認するための語句もより自然につながると考えられる。

I - B

【現実と命題の関係】

命題は真でもあるが、それに反する何らかの状況が存在する

【話し手の命題に対する態度】

真でもあるが、現実にはそうでもないときもあると考えている

⇒ 【機能 B】 現実と命題を同じように扱うべきではないことを示す

【共起しやすい表現】 必ずしも

(16) 安いから必ずしも悪いというわけではなく、目的に応じて使い分ければよいのではないだろうか。 その違いを明確にして売っているところが信頼できる店と言える。

(PB22\_00265: 出版・書籍)

(17) わが国の社会保障法は、必ずしも民法や商法のように統一的な法体系を形成しているわけではない。 社会保障法という用語が法律用語として登場してきたのは第二次世界大戦後のことであり、六法全書においてその名称が登場したのも昭和四十年代のことである。

(LBq3\_00053: 図書館・書籍)

例(16)では、一般的に「安いから、質も当然悪い」という認識がな



されてきたが、話し手は「値段は安い」と「質は悪い」といった複数の命題に対して現実世界にはそうではない状況も想像し得ると主張している。そこで、例(16)を見てみると、現実世界では命題に反する、「安いから悪いと思われるものを目的に応じて使い分ければよい」といった状況も存在する。つまり、以上の状況は命題の「安いから、質も当然悪い」を同じように扱うべきではないと思われる。

例(17)では、「社会保障法」は民法や商法のように密接な関係にあるものがないと考えられる。その理由として、民法や商法と比較すると、近代になってから使われるようになったことがある。つまり、一般的には「社会保障法」は民法や商法のように統一的な法体系を形成していると考えられるが、「社会保障法」と「民法や商法」を同じように扱うべきではないと示したい話し手の意図が文脈から判断できると思われる。

I - C

【現実と命題の関係】 現実世界で命題が成り立たない

【話し手の命題に対する態度】

現状から考えれば命題が成立しないのが普通であると表明する

⇒ 【機能 C】 既得情報から命題に否定的評価を行う

【共起しやすい表現】 だからといって、とは言っても、であっても

(18) 斜頸は、くびすじにある筋肉がかたくなっているものですが、だからといってすぐ治療が必要なわけではありません。自然の経過でなおってしまうものがほとんどです。

(LBi5\_00012: 図書館・書籍)

(19) 日本では、大学病院や公立病院の給料は、年齢、勤務年数、地位などによって決まり、一般的に他科の医師より長時間勤務する外科医であっても、給料に差があるわけではない。

(LBs4\_00046: 図書館・書籍)

まず、現実世界と命題の表す事態との関係を述べる。例(18)では、命題の表す事態にあたる「すぐ治療が必要である」ことを現実世界に持ち出して考えると、「自然の経過でなおってしまうものがほとんどである」ため、命題の表す事態は現実世界では成り立たないと言える。例(19)も同じように、医師の給料に関して現実世界では、「年齢、勤務年数、地位などによって決まっている」ため、命題の表す事態と見られる「勤務時間が長い外科医は給料が高い」ことが導き出されない。つまり、命題の表す事態を現実世界の状況から考えれば、成立しないのが普通であると表明する話し手の態度が文脈から伺える。そのゆえ、話し手が上述した態度を持っているため、命題に否定的評価を下しているわけである。

I - D

【現実と命題の関係】 命題を反事実として捉える

【話し手の命題に対する態度】

命題の成立可能性の低さを際立たせようとしている

⇒ 【機能 D】 いくら低いとしても、命題に成立可能性があることを表明する

【共起しやすい表現】 まったく、一切、全然、決して

(20) 夜の海に浮かぶ船の中は怖いほど静かだった。かと言って、まったく音がしないわけではない。どこか遠くで、鉄のきしむ音やエンジンの呼吸する音や部屋の前を通り過ぎる誰かの足音がするのだが、(後略)。

(LBp9\_00032: 図書館・書籍)

(21) 2×4 の家に住んでいます。どうしても二世帯住宅のように親と水周りを別にしたいのですが、建て増し等は一切出来ないのでしょうか…

一切できないわけではありません。構造上の制約がありますから、希望通りの改築が不可能な場合もあります。

(0C08\_01909:特定目的・知恵袋)

(22) 最近、少々不眠症気味なのです。全然眠れないわけではないのですが、寝ようとしても、すぐには眠れません。ぐっすり眠れる方法ありませんか？

(0C09\_01651: 特定目的・知恵袋)

例(20)～例(22)については、それぞれの命題「まったく音がしない」「一切できない」「全然眠れない」を「反事実」として取り上げている。ここでの「反事実」の表す事態を踏まえると、現実世界で成立可能性は低い、事実としては起こる可能性は否定できない。ということは、話し手は命題に対しあえて「わけではない」を用いてその成立可能性の低さを際立たせることにより、「僅かでありながら、可能性として成立しえる」といった意図が伺える。以上の話し手の意図を例(20)～例(22)で考察してみると、例(20)では「まったく音がしないのではなく、鉄のきしむ音やエンジンの呼吸する音や部屋の前を通り過ぎる誰かの足音がする」、例(21)では「一切できないのではないが、ただし、構造上の制約で希望通りに改築できない場合がある」、例(22)では「全然眠れないのではなく、すぐには眠れない」のように解釈されるのであろう。

I - E

【現実と命題の関係】 命題を反事実として捉える

【話し手の命題に対する態度】

命題の成立しない可能性を際立たせようとしている

⇒ 【機能 E】 命題の表す事態よりも話し手の認識のほうが、本来は妥当なものだと表明する

【共起しやすい表現】 すべて、完全に、必ず

(23) 自分が批判されたからといって、すべての子供が、それは自分が悪いからだとするわけではないのです。悪いのは私ではない、自分をそんなふうにした「あいつ」が悪いのだ、と「あいつ」を非難したくもなるでしょう。

(OB3X\_00184: 特定目的・ベストセラー)

(24) 中薬とは、完全に無毒というわけではなく、用い方によって有毒になるものも含む。体力を補い、疾病を防ぎ、治療に役立つものである。 (PB34\_00021: 出版・書籍)

(25) ただ、どのメーカーも耐久テストは行っているので、買った端末が必ず壊れるというわけではありません。メーカー、機種によって多少は壊れやすさはあると思いますが、買った端末がたまたま不良品に近かったと思うのが普通だと思います。

(OC02\_04103: Yahoo!知恵袋)

まず、I-Eに分類される「わけではない」の用法と前述したI-Dの用法の関連性を述べる。2つは【現実と命題の関係】は同じであるが、【話し手の命題に対する態度】は異なる。現実世界で起こる事実とは反する「命題」とは例(23)「批判されたすべての子供がそれは自分が悪いからだとする」、例(24)「中薬とは完全に無毒というもの」、例(25)「買った端末が必ず壊れる」である。例(23)～(25)の命題の表す事態を踏まえて話し手の命題に対する態度を考察したところ、「すべて、完全に、必ず」のような副詞と共起する命題の表す事態を否定することにより、命題の成立しない可能性を際立たせようとしていることが文脈から読み取れる。もう少し詳しく見ると、例(23)は「すべての子供ではないが、一部の子供は、悪いのは私ではない、自分をそんなふうにした「あいつ」が悪いと思う」、例(24)は「中薬は完全に無毒のものではない。用い方によって、無毒になるものもあれば、有毒になるものもある」、例(25)は「買った端末が必ず壊れるものではないと断言できない。なぜなら、耐久テストは行っているからで

ある」のように解釈できると思われる。つまり、命題の表す事態より、文脈から読み取れる話し手の事態に対する認識のほうはより妥当性があると考えられる。

## 5.2 現実世界と命題の表す事態が矛盾する場合

現実世界と命題の表す事態が一致していない場合は、本来なら断定を用いるはずである。それにも関わらず、「わけではない」で表現するのは、話し手がPに対して対比的関係にあるQ1とQ2を提示することによって、「正解」を際立たせて聞き手に示しているためだと思われる。この用法にあたる用例についてはPに対して「Q1であり、Q2わけではない」か「Q2わけではない。Q1である」の構造を持っている。

ところで、ここで注目したいのは5.1節で検討したI-B(命題は真でもあるが、それに反する何らかの状況が存在する)、およびII-FとII-G(互いに矛盾しているため、二項対立の関係にある)との差異である。もちろん意味的にはI-Bでも命題と矛盾する場合が考えられるが、統語的にはII-FとII-Gを持つ特徴的な構造「Q1であり、Q2わけではない」か「Q2わけではない。Q1である」については、I-B、およびII-FとII-Gの最も異なる場所であると思われる。

以下、本稿でII類に分類される「わけではない」とその2種類の下位分類について述べる。

II-F・G

### 【現実と命題の関係】

互いに矛盾しているため、二項対立の関係にある

### 【話し手の命題に対する態度】

現実と矛盾した関係にあることがわかっている

⇒【機能F】客観的事実を自身の中での「認識」として提示する

⇒【機能G】自分が体験したことを確信的に提示している。<sup>9</sup>

<sup>9</sup> II-FとII-Gをまとめて記述する理由は、【機能】は異なるが、【現実と命題の関係】【話し手の命題に対する態度】【共起しやすい表現】については同じ

【特徴的な構造】

P は Q1 であり、Q2 わけではない

P は Q2 わけではなく、Q1 である

(26) 著作権法は、著作物の創作者を保護するとともに、著作物を公衆に伝達するために重要な役割を果たしている実演家（歌手、俳優など）、レコード製作者、放送事業者及び有線放送事業者について一定の保護を与えています。例えば、歌手の歌唱について考えると、歌手は著作物(音楽)を歌唱するのであって、歌うことによって新たに著作物を創作しているわけではありません。 (LBo0\_00015: 図書館・書籍)

(27) ちなみに新ボーカルを迎えたといっても、あくまで“QUEEN+ポール・ロジャース”であり、ポール・ロジャースは QUEEN に加入したわけではありません。 ベースのジョン・ディーコンも参加しないので残念です…(涙)

(0C01\_08533: Yahoo! 知恵袋)

(28) え〜と…これはパパが買って来たわけではなくて、パパが職場の人からいただいたものなんですけどね…大好きなワニさんのネックピロー。 (0Y14\_36261: Yahoo! ブログ)

(29) 撮り終わっても、すぐに帰るわけじゃなくてな、三〜四時間はスタッフでミーティングするんや。

(0B4X\_00189: 特定目的・ベストセラー)

(26)～(29)では、Q1 と Q2 が両立しない関係にある。いずれも「P は Q1 であり、Q2 わけではない」、あるいは「P は Q2 わけではなく、Q1 である」という構造を持っている。それぞれの用例における P と Q1 と Q2 は、(26)では「歌手(P)」「著作物(音楽)を歌唱すること(Q1)」

---

だからである。

「歌うことによって新たに著作物を創作していること(Q2)」、(27)では「新ボーカルを迎えたこと(P)」「QUEEN+ポール・ロジャース(Q1)」「ポール・ロジャースは QUEEN に加入したこと(Q2)」、(28)では「ワニさんのネックピロー(P)」「職場の人からいただいたもの(Q1)」「パパが買ってきたもの(Q2)」、(29)では「撮り終わった後(P)」「三～四時間はスタッフでミーティングすること(Q1)」「すぐに帰ること(Q2)」である。1つの物事に対して文脈から両立しない2つの状況が読み取れる。そして、話し手がQ1とQ2、この2つの命題に対する態度としては、「わけではない」を用いる命題のほうは真ではないことを主張すると共に、もう一方の命題を「正解」として際立たせて聞き手に示している

続いて、文脈からみた機能を見る。(26)(27)は一般論として認められる物事、あるいは周知の事実として認識される物事を述べている。その一方で、(28)(29)は(26)(27)とは異なり、話し手の身近にある個別の事態を新たな事実として述べている。

## 6. 日本語教育現場への提言

「わけではない」の使用において学習者が困難を感じるのは、「推論の否定」や「部分否定」といった部分ではなく、いつ、何を表現するために「わけではない」を用いるのかが把握しにくいことにあると思われる。実際の使用につながる表現練習のためには、「意味」や「形式」はもちろん、「文脈」や「機能」も重視した上で、練習が行われることが望ましい。教師がそれを参考にする際の指針として、本稿の分析を役に立てたいと考えている。

続いて、冒頭に挙げられている学習者の誤用例の問題点に、本稿の記述がいかに関与を与えるのかを述べる。以下、再び用例を取り上げる。

- (30) 一旦環境が破壊されると人類と他の生物は楽しく生きていくわけではないと思う。(例3再掲)

(31) ロボットじゃあるまいし、毎晩てつやして働けるわけでは  
ない。 (例 4 再掲)

5 節で検討したように、「条件節」と「わけではない」との共起および、「強調的な語」と「わけではない」との共起があまり見られないことから、(30)と(31)のような組み合わせを持つ「わけではない」はかなり容認性が低いように思われる。本稿はコーパスから教科書ではあまり言及されていない使用実態が観察できることから、以上のような「わけではない」の使用が不適切になることを、教師は認識しておく必要があると思われる。

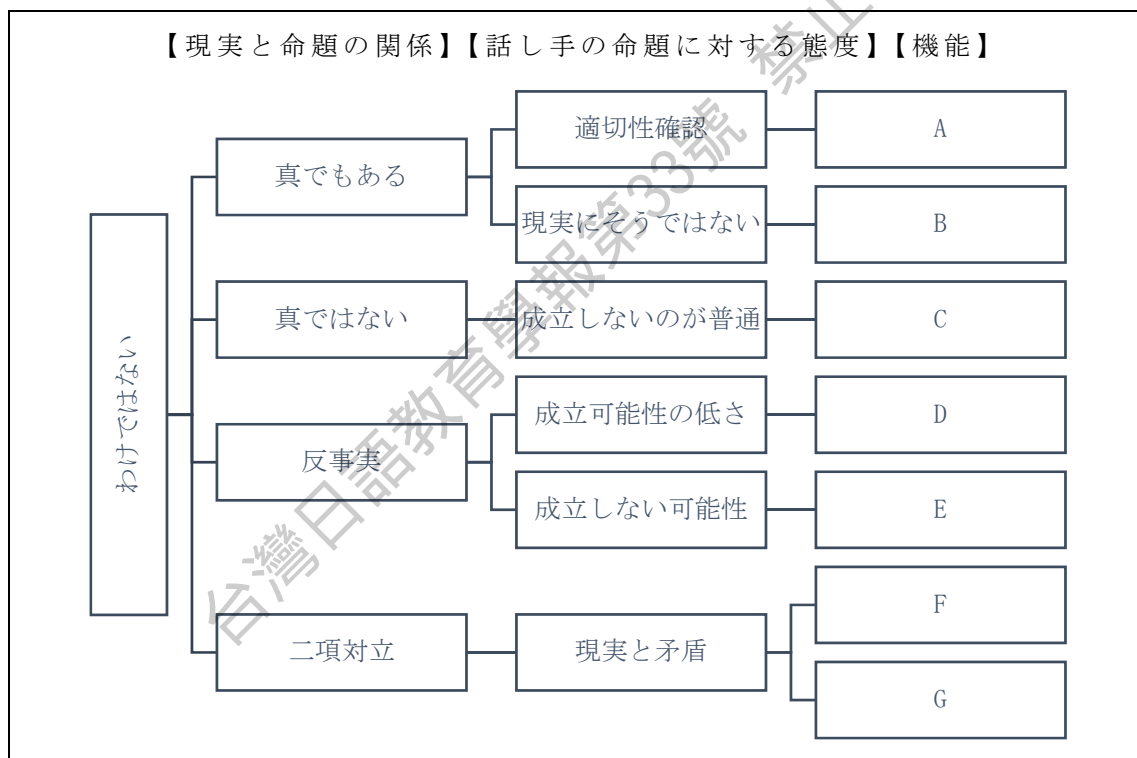


図 1 「わけではない」からみる文脈の全体図

また、日本語教育現場で学習者に練習させる際には、ただ 1 つの用法のみに偏るのではなく、ほかの方法を扱う場合はどのような場面設定をするべきかを考えた上で、図 1 のような文脈の全体図は一助となることを願っている。そして、すべての用法を一度に提示するのではなく、無標の用法と有標の用法があると考えられるため、



これらの用法を順序立てて提示し学習者に認識させたほうが適切ではないかと思われる。ただし、無標の用法と有標の用法に関しては別稿で検討する予定である。

## 7. まとめと今後の課題

本稿では、日本語教育文法の観点から説明の「わけではない」を大きく2種類、細かくは7種類に分け、その7種類の機能を文脈と共に記述した。話し手が「わけではない」を「どう使っていくか」という観点からの整理を試みた。日本語教育のためには、文型の意味や構造だけではなく、その文型の機能やその表現が用いられるための状況などの文脈的な条件についても、詳しく記述していくことが必要であると思われる。今後は、それぞれの文脈において「わけではない」と共起しやすい表現および、「PはQ1であり、Q2わけではない」のような構造を切り口として主節と従属節(理由節・条件節・副詞節など)との関連性についてのより精密な観察を行って記述を具体的かつ実用的にしていくことが課題の1つである。また、今回の教科書調査では総合教科書4冊しか対象として用いられていないため、今後は考察対象とする教科書と文法教材を増やして、「わけではない」の文法解説と用例・練習の傾向を観察し、それらの問題点明らかにした上で、より効果的な教室活動や学習者の実際の言語活動に結び付けていくような文法記述を行いたい。

## 参考文献

庵功雄(2011)「日本語記述文法と日本語教育文法」『日本語教育文法のための多様なアプローチ』森篤嗣・庵功雄編、ひつじ書房、pp. 1-12

庵功雄(2015)「日本語学的知見から見た中上級シラバス」庵功雄・山内博之(編)(2015)『データに基づく文法シラバス』くろしお出版、pp. 15-46

庵功雄・中西久実子・高梨信乃ほか(2001)『中上級を教える人のた

- めの日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 泉原省二(2007)『日本語類義表現使い分け辞典』研究社
- 王世和(2018)「文脈重視の日本語教育文法の研究－テイルの用法を例に－」『台湾日語教育学報』第30号、台湾日語教育学会、pp. 110-136
- 太田陽子(2005)「文脈から見たハズダの機能」『日本語教育』第126号、pp. 114-123
- 太田陽子(2014)『文脈をえがく 運用力につながる文法記述の理念と方法』ココ出版
- 大場美穂子(2013)「『わけだ』『わけではない』の用法についての一考察」『日本語と日本語教育』第41号、pp. 47-66
- 工藤真由美(1997)「否定文とディスコース－『～ノデハナイ』と『～ワケデハナイ』－」『ことばの科学』第8号、むぎ書房、pp. 66-102
- グループ・ジャマシイ(1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 国際交流基金編(2002)『日本語能力試験出題基準改訂版 改訂版』凡人社
- 田中寛(2010)『複合辞からみた日本語文法の研究』ひつじ書房
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 友松悦子・和栗雅子・宮本淳(2010)『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』アルク
- 日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版
- 野田尚史編(2005)「コミュニケーションのための日本語教育文法的设计図」『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版、pp. 1-20
- 野田尚史(2010)「日本語教育と日本語研究の新しい関係を目指して」『日本語教育と日本研究の連携－内容重視型外国語教育に向けて』トムソン木下千尋・牧野成一編、ココ出版、pp. 127-

森篤嗣・庵功雄編(2011)『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房

森田良行・松木正恵(1989)『日本語表現文型』アルク

山内博之(2009)『プロフィシエンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房

### 使用コーパス

『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』

### 考察教科書

『できる日本語 中級 本冊』(2013)アルク

『テーマ別 中級から学ぶ日本語 三訂版』(2014)研究社

『まるごと 日本のことばと文化 中級2 B1』(2017)国際交流基金

『みんなの日本語 中級Ⅱ 本冊』(2012)スリーエーネットワーク

『みんなの日本語 中級Ⅱ 教え方の手引き 第2版』(2016)スリーエーネットワーク

『みんなの日本語 中級Ⅱ 翻訳・文法解説 中国語版』(2012)スリーエーネットワーク